



## 第5章 地域連携センターを拠点とするプロジェクト

吉川, 圭太  
井上, 舞  
奥村, 弘

---

**(Citation)**

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 18 (2019 (令和元) 年度事業報告書) :57-59

**(Issue Date)**

2020-03-22

**(Resource Type)**

report part

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81012157>



## 第5章

# 地域連携センターを拠点とするプロジェクト

### 平成27年度科学研究費助成事業基盤研究(S) 「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立— 東日本大震災を踏まえて」の研究支援

2014年度からスタートした上記テーマの科研研究は、東日本大震災後の新たな課題（津波、放射能被害など）及び海溝型地震への対応をさらに進め、「災害文化」形成に資する地域歴史資料学を確立することを目的としている。

2018年度が最終年度であったが、2018年7月西日本豪雨災害の発生を受け、研究課題を2019年度に繰り越した。西日本豪雨災害に対応する実践的研究の蓄積とその過程において、東日本大震災以降の資料保全論を再検討すべき新たな知見を得ることとなり、国内外の調査研究データを踏まえた研究成果のとりまとめを進めた。

（文責・吉川圭太）

### 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+) 「地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム」

2015年度より5カ年計画で開始した地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)「地域創生に応える実践力要請ひょうご神戸プラットフォーム」について、ここでは地域連携センターを拠点に活動してきた「歴史と文化」領域に関して述べる。

最終年度となる本年度の活動も、地域連携セン

ターの諸活動と密接にリンクする形で展開した。なかでもCOC+事業と密接に関わった事業としては、

- 歴史文化を巡る地域連携協議会の開催（本報告書第1章参照）
- 文学部・大学院人文学研究科における学生向け・市民向け地域志向プログラム（地域歴史遺産保全活用基礎論A・B、地域歴史遺産活用演習、まちづくり地域歴史遺産活用講座、同講座オプションプログラム古文書解読初級講座の開講（本報告書第4章参照）
- 兵庫県防災研修会の開催（本報告書第2章参照）
- 『地域歴史遺産と現代社会』の活用などが挙げられる。

このほか、7月20日に尼崎市立中央図書館セミナー室において、大学COC+シンポジウム「地域歴史遺産の活用 新しい尼崎城下町の活用を目指して」が開催され、井上舞が大江篤（園田学園女子大学人間教育学部教授）、楞野一裕（尼崎市立文化財収蔵庫館長）、辻川敦（尼崎市立地域研究史料館長）らの報告に対してコメントした。

また、2020年3月21日に大学COC+シンポジウム「地域歴史遺産の「保存」と「活用」—博物館・公文書館の役割—」で、市澤哲がディスカッションに参加予定であったが、新型肺炎対策のため、延期となった。

（文責・井上舞）

## 人間文化機構との連携事業

2018年1月、神戸大学・東北大学・人間文化研究機構（基盤機関：国立歴史民俗博物館）の三者で「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」（略称：歴史資料保全NW事業）についての連携協定が締結された。この事業は、歴史文化資料保全及びそのための全国的な相互支援体制の構築、資料保全を担う人材の育成・教育プログラムの研究、地域の歴史文化の継承にかかわる大学の機能強化を主な目的としている。本センターは、中心3拠点の一つである神戸大学大学院人文学研究科が推進する事業の基盤機関である。

本年度は国立歴史民俗博物館・歴史資料ネットワーク等と連携して、2018年西日本豪雨災害への対応及び連携支援を継続するとともに、長野・栃木などにおいて2019年台風19号被災資料保全を支援した。また、愛媛大学、愛媛資料ネットワーク等と共同で伊方原発関係資料の保存・整理作業を進めたほか、くまもと森都心プラザ図書館で行われている熊本地震資料の整理に協力するなど、震災資料・現代資料の保存・整理論に関する調査研究を進めた。

これらの現場での対応及びネットワークを踏まえて、本年度は全国広域ネットワーク形成と地域連携モデルの構築にかかわる協議会・研究会等を下記の通り行った。

・8月3日「第2回歴史文化資料保全西日本大学協議会」（於センタープラザ西館、主催：歴史資料保全NW事業、神戸大学大学院人文学研究科）

2018年の大阪北部地震・西日本豪雨災害・台風21号被災各地での被災資料保全の現状と課題を共有し、人的・組織的な連携構築強化と大学の役割などについて議論した。28名(20機関)参加。

・9月24日「伊方原発関係資料整理中間報告会」（於八幡浜市磯津地区公民館）

伊方原発関係資料の保存整理作業の進捗状況および資料群の概要、資料的価値などについて共有するとともに、当事者らからの聞き取りも兼ねた。神戸大学、愛媛大学、愛媛資料ネット、地元関係者ら20名が参加した。

・12月22日「地域歴史文化大学フォーラム in 名古屋」（於名古屋大学、主催：歴史資料保全NW事業、名古屋大学大学院人文学研究科）

東海資料ネットの設立に向けた東海地域での資料保全の取り組み及び西日本・東日本各地での活動の現状と課題を共有し、資料防災対策等について議論した。約160名参加。

・2月8・9日「第6回全国史料ネット研究交流集会」（於御影公会堂、主催：歴史資料ネットワーク、歴史資料保全NW事業）

本センターが集会に協力したほか、「阪神・淡路大震災を撮る一大木本美通写真展一」（主催：本センター、協力：神戸大学附属図書館震災文庫）を出展した。2日間で延べ235名参加。

このほか、7月から9月にかけて兵庫県内5カ所で開催された「兵庫県文化財防災研修会」（主催：本センター、兵庫県教育委員会）に協力した。

人材育成としては、神戸大学附属図書館震災文庫等と連携して、神戸大学文学部の学生・院生を対象に阪神・淡路大震災資料の調査を実施し、震災の記憶継承を資料研究・歴史研究の手法によって学習していくための教育実践を進めた。その成果については、2020年1月16日～2月4日に神戸大学附属図書館にて「草の根市民メディアからの発信―「ミニコミ」から問う阪神・淡路大震災」として展示した。

また、第9回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会（1月31日、主催：神戸大学附属図書館ほか）、第18回歴史文化をめぐる地域連携協議会（2月2日、主催：本センター）について、人間文化研究機構の共催を得た。

（文責・吉川圭太）

令和元年度科学研究費助成事業特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」

今年度、科学研究費助成事業特別推進研究「地域歴史資料学を機軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」(2019年度～2023年度、研究代表者：奥村弘、課題番号：19H05457)が採択された。本研究は2009年度に採択された基板研究(S)「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」、2014年度に採択された基盤研究(S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立 - 東日本大震災を踏まえて -」での研究成果も踏まえつつ、社会構造の大変動による人口減少や大規模災害等により危機に瀕している日本の地域存続の基盤となる、新たな地域歴史文化創成のための実践的研究領域を確立することを目的としている。

具体的には、①地域住民を軸とする地域歴史資料と地域歴史文化の未来への継承方法の確立、②地域歴史文化創成に資するデータの国際標準構築と全国的データインフラストラクチャー構築、③大災害が続発する日本列島において、地域歴史文化は災害の記憶を蓄積する文化を内包させてきたことを踏まえ、地域歴史文化創成の基礎となる新たな地域社会形成史の通史的提示を行う。以上により、地域社会において同様な課題を持つ世界各地の研究者間の課題共有をはかろうとするものである。人文学研究科地域連携センターは、本研究の拠点のひとつとなっている。

今年度は下記のような研究会・協議会などの開催、開催協力を行った。

### 1. 地域歴史資料学研究会の開催

- 第1回 2019年8月31日・9月1日、於淡路夢舞台国際会議場、淡路市内各地巡検
- 第2回 2019年9月22日、於神戸大学
- 第3回 2019年11月9日、於岡山大学
- 第4回 2020年1月25日・26日、於神戸

大学

- 第5回 2020年1月30日、於神戸市内各地巡検
- 第6回 2020年2月10日、於神戸大学
- 第7回 2020年2月28日・29日、於岡山大学、※新型コロナウイルス対策のため中止
- 第9回 2020年3月17日・18日、於神戸大学 ※同上
- 第8回 2020年3月27日、於神戸大学 ※同上

また、2019年8月2日(金)に、センタープラザ西館貸会議室において、科研特別推進研究グループ研究会を開催した。2020年3月27日には総括研究会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス対策のため、中止となった。

### 2. 関連行事の共催・協力等

- 兵庫県文化財防災研修会(2019年7月25日～9月9日、計5回)への協力
- 10月23日に、ルーヴェン大学において、ルーヴェン大学のヤン・シュミット氏らと、大規模災害時・日常時における地域歴史資料の保全や、地域史研究に関して議論を行った。
- 新潟県中越地震15周年災害資料シンポジウム「繰り返す災害と長く向き合うために」(2019年12月15日、於新潟大学)の後援
- 地域歴史文化大学フォーラム in 名古屋「地域史料保全のあり方を考える」(2019年12月22日、於名古屋大学)の共催
- 第9回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会(2020年1月31日、於神戸大学)の共催
- 第18回歴史文化をめぐる地域連携協議会「地域歴史遺産を未来につなぐために」(2020年2月2日、於神戸大学)の共催
- 「第6回全国史料ネット研究交流集会」(2020年2月8日・9日、於御影公会堂)の共催  
(文責・井上舞)